

玉前神社

上総国一ノ宮

式内名神大社



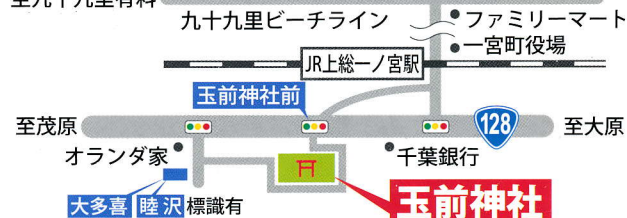
はだしの道



さざれ石



至九十九里有料



上総国 一ノ宮 玉前神社

千葉県長生郡一宮町一宮 3048

TEL 0475-42-2711

FAX 0475-42-6922

URL www.tamasaki.org

駐車場 50 台完備

※大型バス駐車可 (要問い合わせ)



年間の祭事・行事

1月1日 歳旦祭 **上総神楽**
初祈祷随時受付

3日 元始祭

2月3日 節分厄除大祭

豆打ちの儀

11日 紀元祭

17日 祈年祭

一年の五穀豊穡を祈念

春分の日 上総権介朝臣広常公慰霊祭

当社に縁の深い広常公の慰霊祭を碑前に於いて行います

4月第1土曜日

雅楽演奏会「花見の宴」

桜の花を愛でながら

雅楽が奏されます

12日 春季宵宮祭と神賑行事

13日 春季大祭 **上総神楽**

29日 御田植祭 於 神饌田

早乙女による田舞や手植え

6月30日 夏越の大祓式

知らず知らず^{ひそかに}に付いた罪ケガレを人形に託して大海原に祓い流します

7月14・15日 宮難行灯まつり **上総神楽**
境内が五〇〇基余りの大小の行灯の灯火に包まれます

8月4日 箸感謝祭

夏 選日 雅楽演奏会「月見の宴」
一宮海岸で満月の月を

愛でながら雅楽が奏されます

9月10日 鵜羽神社御迎祭並びに稚児参り

上総神楽

12日 例祭宵宮祭

上総神楽

13日 例祭 **上総神楽**
(上総十二社祭り)

下旬 抜穂祭 於 神饌田

10月下旬〜12月上旬 **七五三詣** 予約不要 随時受付け

10月27日 十二神社宵宮祭と神賑行事

28日 十二神社例祭 (愛宕まつり)

11月1日 氏子太々祭 **上総神楽**

23日 新嘗祭

12月初旬 氏子大麻頒布始祭

醸造始祭

31日 年越の大祓式・除夜祭

毎月1日・13日9時 月並祭

28日9時 十二神社月並祭

すべて参列は自由です



ご祭神玉依姫命

たま より ひめのみこと

石長姫命

大山津見命 — 木花之佐久夜姫命

瀬瀬云能命

火照命

火須勢理命

火遠理命 (日子火火出見命)

大綿津見命

豊玉姫命

玉依姫命

鵜茅葺不合命

五瀬命

稲飯命

三毛入野命

日本磐余彦命

(神武天皇)

神話『古事記』には海神・豊玉姫命が夫・日子火火出見命の故郷の海浜で御子・鵜茅葺不合命を出産の後、妹の玉依姫命にその御子の養育を託して海へ去られたことが記されています。

赤玉は緒さへ光れど白玉の 君が装ひし尊くありけり

豊玉姫命は祝いの歌を添えて御子を玉依姫命に託されました。玉依姫命は陰・日向となり赤ちゃんを守り育てになりました。

信仰

日本の東の端に位置する神社として日の信仰があり、新しく始まる事象、起業・再生・発祥等の守護、また月の信仰により、子授り、安産・子育て・精神など主に女性の神秘的な事象の守護が有名で、古来ご皇室はもとより武門武将の崇敬も非常に篤く、源頼朝公が妻政子の懷妊に際し、安産を祈願したことも伝えられています。また、人と人との縁を結ぶとして、商売や縁結びの信仰も篤い。

由緒

古代、玉之浦と称えた九十九里浜の南端釣ヶ崎海岸辺りがご祭神の由縁の地とされています。

当地は温暖な気候と海山の幸に恵まれ早くから人の営みがあり、神話や伝説が多く生まれ受け継がれて来ました。

地域の氏神として、また古来、関東一円より崇敬者を迎える崇敬の厚い神社として平安時代には、延喜式内名神大社に列し、また時代が下っては上総国一ノ宮としての歴史と伝統を誇って参りました。

房総半島の東の端に位置する当社は、江戸時代には、江戸から巽巳の方角に鎮まる神社として恵方参りが非常に盛んであります。

現在もまた関東一円、また全国から多くの吉方参りの参拝者をお迎えしています。



文化財

「梅樹双雀鏡」 国重要文化財

若草の萌える砂浜に流水と老梅その幹に二羽の雀が戯れる姿に尾花一株を添えた日本の趣向にあふれた和鏡で鎌倉期の作

「玉前神社社殿と棟札」 県指定有形文化財

貞享四（一六八七）年の建築。珍しい黒漆塗りで重厚な雰囲気漂わせています

「萌黄緞胴丸」 一宮町指定文化財有形工芸品

かつて上総権介広常が源頼朝の東国泰平を祈願した願文をそえ、玉前神社に甲冑一式を寄進した（戦国末期の戦乱により焼失）故事に因み、天保十四年（一八四三）、一宮藩主加納久徴が寄進したものと伝えます。

「上総神楽」 県指定無形民俗文化財

江戸時代から伝えられており、現在は氏子有志で結成された保存会が伝承しています。

例祭 神幸祭 上総十二社祭り

毎年九月十日から十三日に行われ、十三日の神幸祭は「上総十二社祭り」「上総の裸祭り」と称し、房総半島に多い寄合い祭りの典型的なものとされ、最古の歴史と格식을誇り、また古い儀式が残されていることなどから千葉県の無形民俗文化財に指定されています。



九月十日 鶏羽神社御迎祭
うば じんじや おむかえさい
く 神代より伝う龍宮臨幸の儀

隣町睦沢町岩井の郷に鎮座する鶏羽神社のお神輿をお迎えする神事です。鶏羽神社は玉依姫命が鶏茅葺不合命の養育を願って御祖の神、日子火火出見命と豊玉姫命をお祀りしたといわれており、鶏羽神社の例祭の後、二基の神輿を殿内に入れ、社伝の神饌「おほり」「かすかみ」などをお供えし、神々の御霊合わせの儀が行われます。この日は、子育ての信仰にあやかり、稚児行列のお参りや、神輿くぐりに親子が参り、玉依姫の「乳母の乳」と云われる甘酒が振舞われます。



九月十三日
ご例祭と神幸祭

大同二（八〇七）年創始と伝えるこの祭りは、玉依姫命とその一族の神々の再会をはたすため、それぞれの神社から上半身裸の男たちが神輿を担ぎ、由縁の地・釣ヶ崎海岸に集結する祭りです。十基程の神輿・七頭の神馬・千人の男衆が九十九里の大海原を背に渚を踏みつつ疾走するさまは圧巻です。